

## 平成30年度 「学ぼう！ふるさと未来」支援事業報告書

### 【実践の目的】

本校は、富山県の北西に位置し、校区は17地区、全戸数は約860戸である。住民の教育に対する関心は高いが、人口減少のため8年前に宇波小学校と女良小学校が統合して灘浦小学校となった。現在の児童数は46名で、5・6年生が複式学級の小規模校である。灘浦地区は、定置網や民宿発祥の地であり、歴史的、文化的に恵まれた環境にある。校区には、



＜灘浦から見る虻が島越しの立山連峰＞



＜大境洞窟遺跡＞

大境洞窟遺跡、小境の朝日神社社叢、中田の道神社拝殿、虻が島、石動山、棚田、長坂の大いぬくす等、多くの国指定や県指定の文化遺産、自然遺産がある。

この環境を活かしたふるさと学習に、全校で取り組んでいる。地域を知る学習を通してふるさとへの愛着を深め、ふるさとを誇りに思い、ふるさとの発展のために自分

にできることを模索する大人になってほしいと考える。

また、地元公民館と提携し、小学生だけでなく保護者や地域住民へ、虻が島の学習会や清掃活動への参加を呼びかけている。地域の自然遺産は、地域で守ろうとする気持ちを高めたい。

### 【実践の内容と方法】

#### ① 虻が島の自然観察会と島内清掃

##### ＜これまでの経緯＞

姿地区虻が島を守る会主催の「虻が島の自然観察会・島内清掃」に小学生と保護者、地域住民等が参加している。

現在は、公民館活動の1つとして受け継がれているが、島の美化活動の始まりは、灘浦小が統合する前の女良小学校で、1980年以来、5・6年生により32年間続けられてきた。また、1993年からは清掃活動に加えて「ふるさと学習」の一環として島の動植物、地形地質、歴史、伝説などについて現地学習を行ってきた。

その当時から虻が島の自然観察講師として、泉 治夫先生に来ていただき、虻が島がなぜ大切なのか、なぜ保護しなければならないのかを環境保全活動を通じ、指導していただいている。

##### ＜計画＞

姿地区虻が島を守る会と宇波・女良両公民館の公民館合同事業として、7月の夏休み中に実施する予定である。参加者募集のチラシを、全校児童に配布する。

ねらいは、『宇波・女良の地区住民の参加で、地域の自然遺産を守る』である。毎年訪れる家族も有り、自然愛護の心の育成とともに、地域の遺産を知り、未来へ残そうという気持ちの醸成に役立っている。

参加者は、希望する児童・保護者・地域の方・教員等である。取りまとめや渡航船の手配、当日の進行は、公民館が行う。また、自然観察講師への連絡や水中めがねの準備等は、小学校が行う。

### <実施>

氷見市姿地区の蛇が島を守る会は、7月21日（土）同地区沖約1kmにある県名勝・天然記念物の蛇が島で夏恒例の清掃活動と自然観察会を行った。灘浦小学生、保護者、教員、ボーイスカウト、地域住民ら約60名が参加した。参加者は、島内の漂着ごみを拾った後、島の豊かな生物を観察して地域の財産を守る意識を高めた。



<蛇が島清掃 漂流物が多いね>



宇波公民館と女良公民館の共同事業として、毎年実施している。扇谷宇波公民館長から「大切な島を守っていこう」と激励されて女良漁港を出港した。島に上陸してすぐに、岩場に漂着したペットボトルやプラスチック容器等を拾い集めた。

自然観察会では、市自然保護員協議会の関会長や県中央植物園の大原主任から「南方と北方の植物が、

### <珍しい植物分布の説明>

小さな島に混生している珍しい島である」と説明を受けた。

高岡生物研究会の泉会長、瀬川幹事が実際に海に潜ってウミウシやヒトデ、海藻などの生物を採取し、子供たちに紹介した。



<美しいウミウシに驚き！>



子供たちは、島を巡って植物を観察したり、水中めがねで生き物を探したりした。

2年女子は、「貝を捕った。きれいな蛇が島をいつまでも残したい」と話し、2年男子は、「海に囲まれてとても楽しい所。ヤドカリをみつけたよ」と喜んだ。

### <海の生き物みつけたよ>



<当日の活動を伝える 新聞記事>

② 石動山登山

<計画>

地域には、「灘浦石動山を護る会」がある。旧女良小学校では、秋の遠足として石動山に登る活動が、長年続けられていた。統合して灘浦小学校になってからは、3～6学年が石動山登山として継承し、「灘浦石動山を護る会」の会員に同行していただいている。

昨年度、初めて低学年も、スクールバスを途中まで利用し、全校で石動山登山を行った。登山の途中には、会員による石動山の歴史や伝説、動植物の解説が行われている。

<実施>

今年度は、10月26日（金）に実施した。昨年度は、ゴールをパノラマ展望台にしていたが、今年度は、違うルートで石動山の頂上を目指す。

9月26日（水）石動山を護る会理事の関一朗氏が来校され、事前打合会を行う。

内容は、①登山ルートの確認…下学年・上学年のコースについて

②見学場所について

③下見の日時の確認 である。

10月15日（月）本番の2週間前に、関さんと一緒に全教員でルートの下見・確認を行う。また、ルートの危険箇所のチェックも行った。

今年度のルートは、以下のように決定した。

4～6年生		1～3年生	
8:30	学校出発 スクールバス		
8:45	長坂 (大いぬくす) スクールバス		
9:00	光西寺着 (見学)		
9:30	光西寺発 徒歩	9:30	光西寺発 スクールバス
10:30	天正の立石 徒歩	10:30	天正の立石 (散さく)
11:30	資料館着 (昼食・散さく)		
12:30	資料館発 徒歩 (石動山頂上登山)		
13:20	資料館着 (休憩)		
13:30	資料館発 徒歩 (4年生は天正の立石からスクールバス)	13:30	資料館発 スクールバス
14:40	平 スクールバス	14:00	学校到着
15:10	学校到着		

また、10月23日(火)には、関さんが長坂地区の見所をまとめたパネルを小学校にもってきて下さり、ランチルーム前の廊下に掲示することにより、事前指導に役立てることができた。

登山が終わった後も、友人とのぞき込む児童の姿を見ることができた。



<長坂地区を紹介するパネル>



<護る会の皆さんお願いします>

10月26日(金)石動山登山 当日。天気は快晴。「石動山を護る会」の会員6名が参加して下さい。子供たちが歩く列の前後に、徒歩もしくは自家用車でついていただく。スクールバスの運転手とも連絡を取り合い、安全面に十分留意する。

校舎玄関前で、出発式を行い、スクールバス2台に児童・教員が乗り込み、出発する。

まず、県指定天然記念物の「大いぬくす」を見学する。和名「タブノキ」。昨年度天皇陛下が来県され、行われた全国植樹祭に、灘浦小学校の児童が招待された。天皇

陛下がお手植えされた「タブノキ」の種は、灘浦小学校の児童が採取した種ということである。

見学した「大いぬくす」は、樹高約12m、幹周約6.9m、推定樹齢500年の巨木である。神木として地域で大切に守られている。

また、氷見市の木「つまま」も「タブノキ」である。



＜堂々とした大いぬくす＞

その後、光西寺へ向かう。  
光西寺の作られた年代は、不詳であるが、加賀藩御用大工集団、大窪大工の力作である。灘浦地区にある大窪の地に現在は、数軒の大工が残る。主に寺社仏閣の修理を得意とする。



＜新しく作られた山門＞



＜人喰虎の掛け軸の伝説を聴く＞



＜大乘法華塔＞雨乞い祈願成就の記念塔

光西寺の内部の説明は、「灘浦石動山を護る会」会長 寺岡さんにしていただく。

掛け軸の由来、トイレの神様、酒のみ地蔵などの話を聞く。



＜不浄金剛（トイレの神様）＞



＜なでた箇所が良くなるなで地蔵＞

歴史や伝説を学びながら、周りの紅葉を見て、様々な動植物の名前を教えてください

ながら、郷土の石動山の秋の風景を楽しむ。



<石動山開山の解説を聞く>



<石動山の名前のいわれ>



<長い階段を登り頂上を目指す>



<頂上到着！>

○児童の感想

- ・光西寺で、さわるとさわった場所が良くなる地蔵様ののどと頭をなでました。坂道や階段がたくさんあってつらかったけど、お昼の弁当がおいしかったです。晴れて空気が気持ちよかったです。(1年)
- ・いっぱい秋の物を見つけました。お母さんに作ってもらったお弁当がおいしかったです。頂上へ行ったら、石を積み上げて願いを叶えることを教えてもらいました。栗を見つけて、うれしかったです。(2年)
- ・思い出に残ったことは2つあります。1つめは、石動山を護る会の皆さんにいろいろ教えていただいたことです。2つめは、頂上から見えた景色です。途中は、つらかったけど登り切った気持ちと、自然の美しさに感動できました。(6年)



◎まとめ

年々、地域の人口は減少し、高齢者の一人暮らしが多くなっている。海に山に魅力的な地域であるにも関わらず、それを伝える子供の数も減っている。流出を防ぐことは、地域の大きな課題である。

子供たちが自分の地域の良さを知り、地域を愛する心、誇りに思う心をもたせたい。将来、大人になったときにも「灘浦地区」を、そして「氷見市」を愛し、後世へとよさを伝える人、よさの存続のために貢献できる人をつくりたい。また、住民の方々にも、公民館行事を通して、子供たちと触れ合う機会をもつことで、地域のことを教え、子供たちを見守る学校への応援団になっていただきたいと考えている。